別添資料　研修の概要・成果・課題

平生町立平生小学校

＜研修主題＞
言語力を高めるための ICT を効果的に活用した授業づくり

１　研修主題について

言語は、知的活動（特に思考や論理）、感性や情緒、コミュニケーション（対話や議論）の基盤である。情報化が急速に進展している現代社会において、「言葉」を正しく理解し、的確に用いる力、さらに、自分の考えを「相手」や「場」に応じて適切に表現する力（言語能力）を身に付けることが大切である。言語能力を育成するためには、日々の学習で子ども同士の対話や議論等、言語活動を取り入れていく必要があり、その言語活動を活発にするためには、相手意識をもって伝わるように話したり、言葉のつながりを考えて筋道を立てて話したりしていくことが大切である。

また、新たな社会（society5.0）を生き抜くために、「GIGA スクール構想」が実施された。「GIGA スクール構想」とは、「児童生徒向けの１人１台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された創造性を育む教育を、全国の学校現場で持続的に実現させる構想」である。この構想を実現するためには、児童の ICT 活用技術を高めることが必要であり、そのために、教員の ICT 活用技術を身に付けることが急務となる。

そこで、本年度は研修主題「言語力を高めるための ICT を効果的に活用した授業づくり」を掲げ、ICT を活用した教育、特にロイロノートの活用に重点を置いて、研修を進めることとした。

本校の児童の実態として、伝えたいことは頭の中に浮かんではいるが、言葉で表現することを苦手とする児童が多い。特に、学年が上がるにつれて、それが顕著に表れている。だからこそ、ロイロノートのチャート図を活用しながら、自分の考えを相手に伝わるように分かりやすく論理立てて説明したり、iPad に記述しながら思考したりする力を育てたい。ICT 機器を活用して、プログラミング教育を推進していくことは、児童の論理的思考力を高めること、新しい時代を生き抜く力を身に付けることにつながっていくと考える。

ICT 教育に関わる本校の現状として、昨年度からタブレット端末（iPad）１８０台が導入され、本年度中には１人１台端末となる等、ICT 機器を活用した授業がしやすい環境が整備されつつある。昨年度は、iPad の使い方における研修を実施し、ICT 機器を活用したプレゼン形式の授業や iPad で撮った教科書を電子黒板に映した授業実践等を行ってきた。児童においては、iPad を使ってプレゼンテーションを作って発表したり、自分の考えをチャート図でまとめたものを iPad から他の児童の iPad に映して説明したりできるようになってきている。しかし、教職員の ICT 活用のための技能や、学年やクラスによって ICT 機器の使用頻度に差があることで、児童の技能・活用レベルにかなりのばらつきが見られる。児童が論理的思考を促すためのツールとして ICT 機器を活用するためには、まず、教職員が ICT 活用のスキルを高めることや授業実践の中で、効果的な ICT の活用方法を見出していく必要がある。

全教職員で ICT を活用した授業づくりについての理解を深め、研修が一層充実したものとなるよう、以下の通り、研修の具体を示すこととする。

２　研修の概要

（１）研修の内容

①　教職員の ICT 機器活用スキルの向上に係る研修

・教員のタブレット端末（iPad）の活用スキルの向上
・教育用アプリ「ロイロノート」の活用スキルの向上

② 教師と児童がタブレット端末（iPad）を活用した授業づくりに係る研修
・児童のロイロノート活用への支援
・児童が iPad をツールとして活用し、主体的に学ぶ授業づくり

③ ロイロノートを活用した授業に係る研修
・教育用アプリ「ロイロノート」の活用した授業づくり

（２）研修の方法

① ロイロノートの概要理解や iPad の活用スキル向上に向けては、ある程度見識が深まった後、外部講師を招聘して、指導助言を得る。

② iPad のアプリ「ロイロノート」を活用して一人一授業を行う。指導案の作成については、学年部で作成し、授業については学年ブロックで互見する。授業後の検討会をもつことで、一つの授業を多面的・多角的な視点から分析する。

③ 全体研修として、プラグドのプログラミング教育の研究授業を行う。全体研修に提案する授業は、事前検討、事後協議を行う。

≪実際の研修場面≫

日々の授業において、ＩＣＴの効果的な活用の仕方を計画・実践しながら、ユニット型研修（ワークショップ等）で検証・改善を行っていった。
①～④で、実際の研修場面（一部）を紹介する。

① ユニット型研修

ICT を効果的に活用した授業づくりについて、教員、保護者、地域の方と協議を行った。授業力向上だけでなく、人材育成にもつなげることができた。

② 「面積の求め方を考えよう」(第５学年)

ひし形の面積を考える活動やひし形の面積の公式の仕組みを話し合う活動において、タブレット端末を活用することで、ひし形の面積の求め方を理解することができた。

③　「すがたをかえる大豆・食べ物のひみつ教えます」　（第３学年）

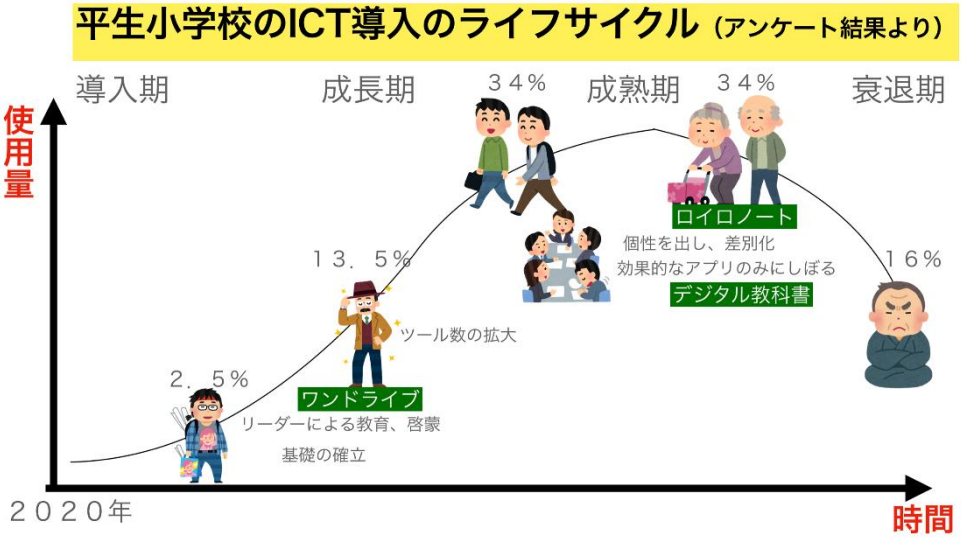
筆者が取り上げた事例の順番とその根拠を話し合う活動において、タブレット端末を活用してすることで、筆者の説明文の工夫を読み取ることができた。

④　「せいかつの中にある音を楽しもう」　（第２学年）

声の高さや強さ、長さ、声の感じ等の組み合わせ方を話し合う活動や、完成した音楽を録音する活動において、タブレット端末を活用することで、音楽の生み出すよさや面白さを感じ取ることができた。

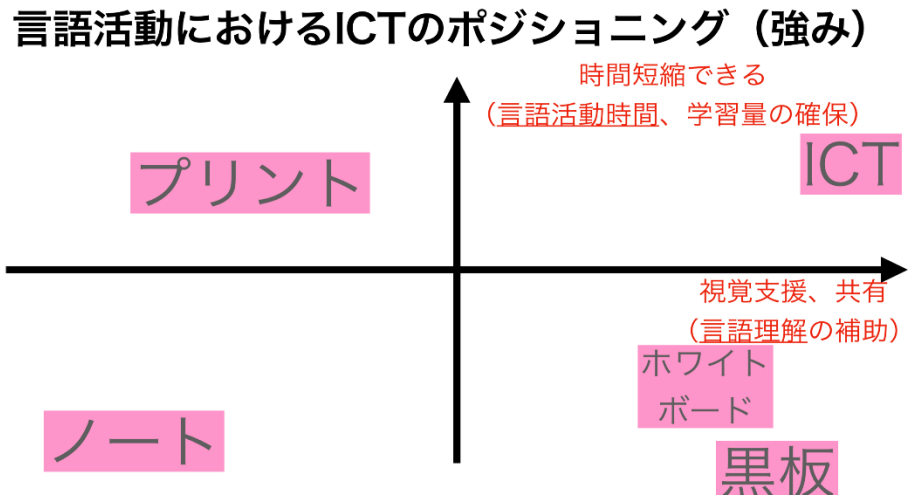
３　成果

○　製品が導入されてからどの時期にあたるのかを分析する、プロダクト・ライフサイクルを基に分析した。その結果、ロイロノートに関しては、週１以上の使用率が９２％、毎日使用している教員は７０％であり、導入期、成熟期に入っていると考えられる。また、デジタル教科書においても同じことが言える。教員の ICT 活用は、成長期から成熟期にフェイズを進み、活用を進めることができた。



○　言語活動における ICT 機器のポジショニングを明確化することができ、デジタルとアナログの使い分けについて気付きを得ることができた。

◆　例：ICT の画像を用いた説明に頼ると、こそあど言葉が多くなるため、黒板に重要用語や、何度も使う言葉を記載し、説明の際に引用できるようにするとよい等）



4　今後の課題

○　「ロイロノート」「デジタル教科書」等授業内で使うものについては、活用が進んだ。しかし、「Onedrive」、「Microsoft teams」等、校務で使うものの活用については課題が残る。そのため、ICT 活用については、「ロイロノート」ばかりにならないように、今後の研修を計画する必要がある。今年度は「ロイロノート」を通じてタブレットに「使って慣れた」人が多い。このまま「ロイロノート」ばかり活用しても、学校としての成長は見込めないため、次年度以降はタブレット使用に慣れたメンバーを中心に、「Onedrive」や「まなびポケット」、「Microsoft teams」等活用のチャネルを広げていくことが、学校全体の生産性向上（将来の教員の働き方改革、子どもの学び）につながると考える。

○　本研修が、子どもの言語力や、論理的思考力の育成につながったかどうかは、昨年度からつながるフィードバックができていないため客観的に把握することができていない。子どもの成長だけではなく、教員の授業力向上のためにも、今後は、ICT 等でデータを蓄積し、結果を基に客観的に振り返りができる環境を整備する必要がある。